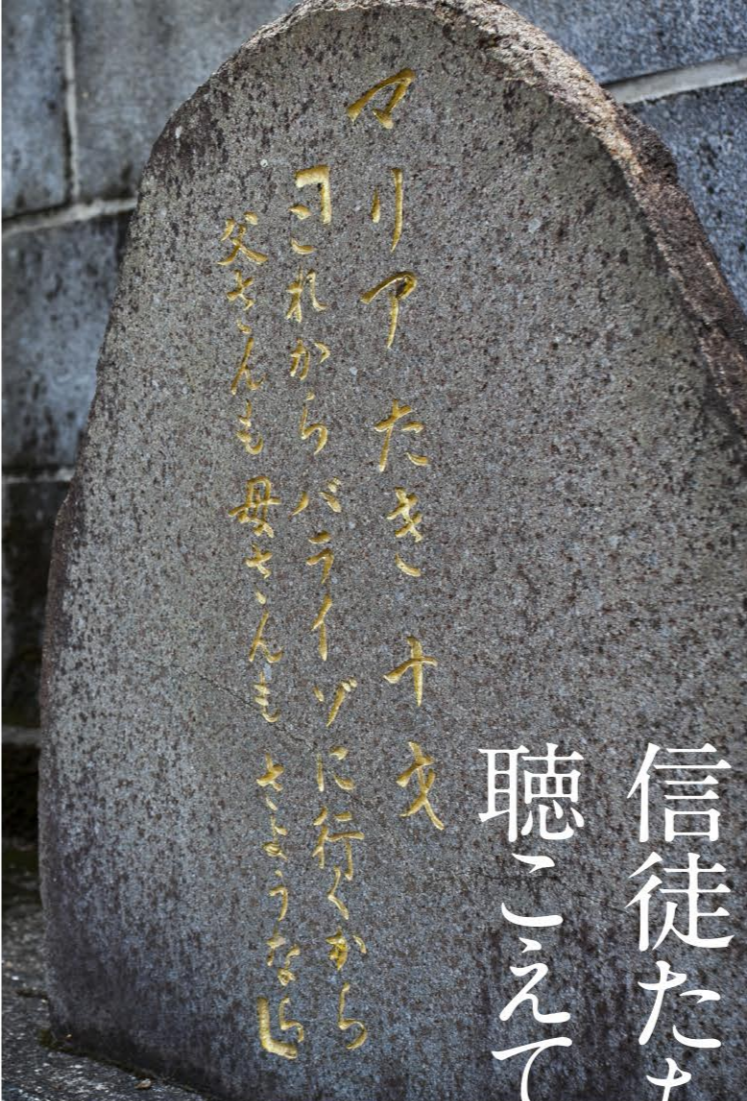




耳を澄ませば

信徒たちの声が
聴こえてくる



「久賀島はカトリックにとって特別な島です。それは一八六八（明治元）年、この島で凄まじい迫害が行われたからです」と中村さんは話す。久賀島では、わずか六坪ほどの牢屋に八カ月もの間、二百名の信徒たちが押し込められ、横になることも許されず、排泄さえもその場で行うことを強いられるという、壮絶な弾圧が行われた歴史がある。この弾圧により四十二名の命が失われている。「牢屋の窄 殉教記念教会」を訪れると、そこには亡くなった方々の名前が刻まれた碑が並んでいる。碑には「トメイ 政治郎 六才 アップ(水)アップと云いながらかわきのために死亡」「ドミニカ たせ 十二才 蛆に下腹をかまれて死亡」「マリ

ア とき 十才 これからバライゾに行くから父さんも母さんもさようなら」……と、胸が苦しくなるような文言が刻まれている。中村さんは「ここには一歳から八十五歳の人々が押し込められました。計算すると、畳一枚の広さに十七名もの人々。しかしこれだけの弾圧を受けても、改宗者は一人もいなかったんです」と、この地が聖地である理由を教えてください。「想像を絶する残酷さを発揮するのにも人間なら、最期まで信仰を貫くのも人間」。ご自身もカトリックである中村さんは、そうつぶやいた。

新しい五輪教会の建設により、教会としての役目を終えた。「そのとき島民たちが、もしかしたら貴重な建物ではないかと思いい、調べてみたんです。そうしたら長崎では大浦天主堂に次いで古い木造の教会堂だということが分かったんです。旧五輪教会堂は解体の危機を乗り越えて、今があるんですよ。まさかその建物が国の重要文化財となり、今度は世界遺産を目指すなんて驚きです」と中村さん。旧五輪教会堂は外から見ると、瓦屋根の和風建築だが、内部は三廊式で、板張りのリブ・ヴォールト天井。小さいながらも和と洋が見事に融合しており、窓越しに見える海や緑も教会の美しさを引き立てている。久賀島は静かな島だ。中村さんは島の

魅力を「迫害を受けながらも、ずっと信仰を守り続けてこられたのは、この島の人たちの人柄にあると思います。久賀島には素朴な人が多い。その素朴さは、もしかしたら今の時代には魅力的に映らないかもしれませんが、私はそれこそがこの島の魅力だと感じています」と話す。久賀島の人々の心を表すように、旧五輪教会堂に掲げられた十字架は、小さく慎ましやかなものであった。

※1/天国
※2/旧五輪教会堂を含めた「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」は平成三十年の世界遺産登録を目指している。
NPO法人 アクロス五島
五島市三尾野町998-17
TEL.0959-72-7505
(ガイド予約受付)
アクロス五島 検索

旧五輪教会堂

島を楽しむ
3つの旅
久賀島コース
教会めぐりの旅
2

